

中部支部支部長の就任にあたって

～中部支部事業の活性化～



愛知工業大学 経営学部 教授
仁科 健

中部支部が設立されたのが1982年（学会年度12年度）です。初代支部長が北野多喜雄氏（当時日本電装）でした。数えて18人目の支部長です。歴代の支部長は産業界の方がほとんどであり、大学関係者としては2人目の依田浩先生（当時名城大学教授）以来となります。

小稿では、支部事業の活性化について述べ、また、それに関連し若手研究者の方々へ若干のメッセージを送りたいと思います。

支部長就任にあたって、これまでの支部運営基本方針に加えて、

- ・学会活動の中堅・中小企業への発信
- ・研究発表会の活性化

を上げました。

前者の方針は、品質管理学会活動の浸透による学会会員の増強をねらったものです。中部地区はものづくりのメッカではあるものの、中堅・中小の企業の品質管理学会の認知度は今ひとつです。具体策として、愛知工業大学 愛名会（同大学のインターンシップおよび就職活動の後援組織）と名古屋工業大学 研究協力会（同大学の産業界との連携への支援組織）へ学会事業の広報を依頼しています。両組織とも、会員企業のほとんどが中堅・中小企業です。

また、支部幹事の企画力によって、学会事業の内容も、品質管理の基本に立ち戻ったテーマや、ものづくり分野以外への展開を意図したものになっています。例えば、第167回（中部支部第38回）シンポジウムでは、テーマを、品質管理の基本である「異常の発見～その感度や対応力を高めるために～」とし、中堅・中小企業への参加者の拡大を意図しました。その際、基調講演を担当しましたが、「すべては2Sから」というベーシックな内容にしました。また、事業所見学会では、プライムツリー

赤池や安城自動車学校を訪問先として選び、ものづくり企業以外を対象とした事業内容とすることによって、参加者の業種の拡大も図っています。すぐに効果が現れているわけではありませんが、事業への参加者増、学会員の増強（2019年6月現在で支部の会員数 352名）につながればと思っています。

後者の方針は、学会活動の更なる質向上です。鈴木知道副会長がVol.49, No.2の副会長からのメッセージで述べているように、学会として一番大きな行事は研究発表会です。それは、支部事業でも同じです。中部支部の研究発表会は今年度で第37回を数えます。15件の発表がありました。発表件数をもっと増やしたいと思っています。

中部支部には、研究会が4つあります。東海地区若手研究会、北陸地区若手研究会、医療の質管理研究会、産学連携研究会です。研究発表会を、各研究会の成果を発信する場の一つとして考えていただいています。

中部支部の会員の方はもちろんのこと、支部以外の会員の方の発表も大歓迎です。これまで、中部支部以外の会員の発表は少なくありません。ご存じのように、学会での研究発表の場は、本部行事として春の研究発表会と秋の年次大会があります。若手の研究者の方々には、これらに加えて、夏に中部支部（あるいは関西支部）での研究発表を期待します。年3回の発表を研究の進捗のマイルストーンにしていだければと思っています。中部支部の場合は産業界からの参加者が多いので、ものづくりの現場の視点からのコメントを聞くよい機会になると思います。このことは、中央と地域との交流につながりますし、支部事業としての研究発表会の活性化にもつながると思います。